

「あすなる夢建築」第20回大阪府公共建築設計コンクール

ー表彰式・プレゼンテーションー

日時：平成23年3月30日(水) 13:00 ~

場所：社団法人 大阪府建築士会



審査委員長 大坪 明 (武庫川女子大学 生活環境学部教授)

受賞者一覧(敬称略)

最優秀作品賞	岳本 大樹	大阪建設専門学校	2年
優秀作品賞	上門 達彦	大阪建設専門学校	2年
優秀作品賞	久保田 伸次	大阪市立都島工業高等学校	3年
優秀作品賞	谷口 弘一	大阪工業技術専門学校	2年
佳作	清田 哲平	大大阪市立都島工業高等学校	2年
佳作	難波 裕馬	大阪建設専門学校	2年
佳作	宮崎 翔太	中央工学校 OSAKA	4年
奨励賞	小西 明	中央工学校 OSAKA	1年
奨励賞	庄司 竜太	日本理工情報専門学校	2年

【表彰式】

13:00 開 会

13:05 開会挨拶 住宅まちづくり部長

13:10 表彰 受賞者8名 住宅まちづくり部長

13:25 閉 会

13:30 記念撮影

【プレゼンテーション】

14:30 開 会

主催者代表開会挨拶（計画課長 澤田 範夫）

14:45 プレゼンテーション （1人12分×4名）

受賞者 4名

15:35 休 憩 （10分）

15:45 プレゼンテーション （1人12分×4名）

受賞者 4名

16:40 審査講評

審査委員長 大坪 明（武庫川女子大学 生活環境学部教授）

閉会挨拶

16:50 閉 会

— 受賞者の声 —

最優秀作品賞	岳本 大樹	大阪建設専門学校 2年
<p>今回このような賞を頂けたことに、深く感謝申し上げます。 今でも信じられない気持ちでいっぱいです。 本コンクールには去年から応募させて頂いていました。 建築の学校に入学してまだまだ知識の乏しいなかでの挑戦でしたが、自分なりに満足のいく作品に仕上がったつもりでした。 結果はもちろん入選出来ませんでしたが、ひとつの作品を仕上げたことに満足していました。 そのなかで来年こそはという気持ちも少し芽生えていました。 今年は去年の失敗を考え見やすさ、シンプルさ、現実性を特に重視しました。 結果論ではありますが、その考えがうまく伝わって頂けたのかなと思います。 もともと設計に関してはとても苦手でした。 学校の中でもそれほど成績のいい方でもないですし、もっといいものを持っている学生が他にもたくさんいると思います。 それでも一生懸命がんばった結果が、今回の受賞につながったことはこの先の私の人生の中で、おおきな自信と支えになると思います。 この自信を胸に社会人になっても、チャレンジすることの大事さを忘れずに励んでいこうと思います。 短い学生生活の中でこのような貴重な実績を頂けたことに、重ねて感謝申し上げるとともに指導して頂いた関係者の方にも合わせてお礼申し上げます。 特に設計製図を担当して頂いた先生には一生あたまが上らない気持ちです。 今回は本当にありがとうございました。</p>		
優秀作品賞	上門 達彦	大阪建設専門学校 2年
	<p>今回、このような賞を頂きありがとうございます。 まさか、授賞するとは思ってもみませんでした。しかし、自信が付きました。 このことを励みに様々なことを学び、向上したいと思います。 ありがとうございました。</p>	
優秀作品賞	久保田 伸次	大阪市立都島工業高等学校 3年
<p>今回の作品は自分が高校生活最後に設計する作品だったので高校生として学んだ事そして感じたことをコンセプトとして活かせたらと思い応募しました。 これまでにさまざまな作品を友人と一緒に切磋琢磨して設計してきました。 3年間建築を学んで自分にはたして成長したのかとよく考えていましたがこういう賞を頂きまして自分自身の3年間は無駄じゃなかったんだと大変うれしい気持ちです。 これからは建築を志す者として精一杯取り組んでいきたいと思っています。</p>		

優秀作品賞	谷口 弘一	大阪工業技術専門学校 1年
<div data-bbox="226 248 507 595" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="528 248 1426 524" data-label="Text"> <p>今回の「あすなる夢建築」は初めて応募した設計コンペでした。建築を学んで一年弱、建築について当然知っていることよりも知らないことのほうが多く、こういった機会にどんどん参加することで考える力や経験を積みたと思いました。</p> <p>したがって、まず入選がどうのこうのよりも期限内に自分のプランをまとめてコンペに出すことに意義があると思いました。</p> </div> <div data-bbox="177 568 1426 651" data-label="Text"> <p>優秀作品賞の手紙を見た時は嬉しさ以上に驚きのほうが大きかったです。このコンペで自分の考えたプランが評価されたのは大変光栄に思っております。また自信もつきました。</p> </div> <div data-bbox="177 696 1426 920" data-label="Text"> <p>今は落ち着いて、最優秀作品賞をとりたかったという悔しい気持ちでいっぱいです。僕だけでなく、悔しい思いをした人達はたくさんいます。この悔しい気持ちを次にぶつけるためにも、来年度以降も是非継続してほしいと願っています。</p> <p>特に「あすなる夢建築」は実施コンペということもあり、建築を学んでいる学生にとって非常にモチベーションが高まるものです。</p> </div> <div data-bbox="177 965 1150 1055" data-label="Text"> <p>このコンペで得た経験や考える力、悔しさは将来必ず役に立つだろうと思います。最後になりましたが、このような機会を与えて頂き、ありがとうございました。</p> </div>		
佳作	清田 哲平	大阪市立都島工業高等学校 2年
<div data-bbox="209 1240 483 1590" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="504 1249 1447 1576" data-label="Text"> <p>私は今回が初めてのコンクールだったため、どのように作品を仕上げているか良いのか分からなかったのですが、周りの友人や先生、大学の先生のアドバイスのおかげで賞を取ることができました。</p> <p>この作品を完成させるまでには何度も図面を練り直し、より良いものができるように努力しました。また、模型も同様に何度か作り直しをしました。</p> <p>今回の経験は自分にとって大切なものになったと思うので、これからも積極的にコンクールに参加していきたいです。</p> </div>		
佳作	難波 佑馬	大阪建設専門学校 2年
<div data-bbox="177 1756 1107 2033" data-label="Text"> <p>このたびは数多くの作品の中から、佳作として選んでいただきありがとうございます。</p> <p>率直な気持ちを言えば、予想もしていなかったもので、とても驚きました。それと同時にとても光栄に思います。お世話になった先生方、アドバイスをくれたクラスメートに感謝したいです。春からは大学へ編入します。さらに飛躍できるよう、今回の賞に恥じないように努力していきたいです。</p> </div> <div data-bbox="1129 1742 1394 2092" data-label="Image"> </div>		

佳作	宮崎 翔太	中央工学校 OSAKA 4年
<div data-bbox="236 239 512 582" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="526 291 1324 519" data-label="Text"> <p>今回このような賞を受賞させて頂きありがとうございます。 今までやってきたことを結果に出す事ができ、大変嬉しく思っております。 これに慢心することなく、更なる向上を目指し、謙虚に頑張っていきたいと思います。</p> </div>		
奨励賞	小西 明	中央工学校 OSAKA 1年
<div data-bbox="175 723 1112 952" data-label="Text"> <p>この度はこのような賞に選んで頂きありがとうございます。 光栄に思っております。 プレゼンテーションにも参加させてもらい、多くの意見や助言を伺えたことが何よりも勉強になりました。 今後の設計活動に生かしていきたいと思います。</p> </div> <div data-bbox="1129 694 1412 1037" data-label="Image"> </div>		
奨励賞	庄司 竜太	日本理工情報専門学校 2年
<div data-bbox="178 1184 442 1527" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="456 1193 1447 1422" data-label="Text"> <p>まず2年連続で入賞でき評価して下さい、たいへん嬉しく思います。 しかしプレゼンテーション当日、個人的な理由により参加出来ず失礼な事をしまして心をお痛めております。 そして、今は建築事務所に勤務しており先輩達のあとを追いかけるので精一杯ですが、負けずに頑張りたいと思います。</p> </div> <div data-bbox="456 1520 997 1550" data-label="Text"> <p>※庄さんの写真は昨年度のプレゼンテーションの様子です。</p> </div>		



「あすなろ夢建築」第20回大阪府公共建築設計コンクール プレゼンテーション発表者一覧表

賞名	タイトル	氏名	学校名	学年	プレゼンのツール	発表順位	作品番号
最優秀作品賞	参連結販	岳本 大樹	大阪建設専門学校	2	PPT(PC持参)、模型、作品	⑧	2-224
優秀作品賞	タイトルなし	上門 達彦	大阪建設専門学校	2	PPT、模型、作品	⑦	2-223
優秀作品賞	link of people ～繰り返しのなかで～	久保田 伸次	大阪市立都島工業高等学校	3	PPT、作品	⑥	1-26
優秀作品賞	連続する空間	谷口弘一	大阪工業技術専門学校	1	PPT、模型、作品	⑤	2-137
佳作	水平に伸びやかに連続した集会所	清田 哲平	大阪市立都島工業高等学校	2	PPT、作品	④	1-33
佳作	Almighty	難波 佑馬	大阪建設専門学校	2	PPT、模型、作品	③	2-229
佳作	「笑顔が見通せるふれあい広場」 ～いつもつながる笑い声～	宮崎 翔太	中央工学校 OSAKA	4	PPT(PC持参)、作品	②	2-141
奨励賞	RING	小西 明	中央工学校 OSAKA	1	PPT、作品	①	2-81
奨励賞	タイトルなし	庄司 竜太	日本理工情報専門学校	2		欠席	2-102

奨励賞

R I N G

中央工学校 OSAKA 1年

小西 明



【発表】

新しい建築を造ろうと考えた。

- 人が集まるよりどころとなる
シンボルの周りに人々が集まるイメージで計画。

テーマ：ゆるく包む空間。中心の光。

- 中心に光、そのまわりに部屋がありどんどんひらけていく。
- ひとつの規則的なリズムによって全部を形成る。
- 影を作ることで太陽の光をより感じられる空間に。

新しい場の提供

- 人が集まり、年月が経過するごとに、この集会所がこの土地に根付くことを考えた。

【大坪委員長】

- ・ 帯状という発想がおもしろい。
- ・ 途中で骨組み構造を置き換えたことが残念。
- ・ 鉄板等で建て、隙間からの光をつくりだすこともできたのでは。→ 考慮しています。

【南委員】

- ・ 発想力、潜在的な能力はすばらしい。
- ・ 集会所としてみると使い勝手に難があるが、レストハウスなどではありえるかも。
- ・ 発想を、造形として完成させたことがすばらしい。

【指導教師】

- ・ 建物配置として便所をどう置くかなどアプローチのアドバイス程度で、口はほとんど挟んでいない。
- 造形に対する姿勢が強い子なので、これからもそのハートを忘れずにがんばってほしい。

佳作

「笑顔が見通せる ふれあい広場」 ～いつもつながる笑い声～

中央工学校 OSAKA 4年

宮崎 翔太



【発表】

世代間のふれあいが薄く感じられる現在

- 集会所はオープンなスペースに
小さなつながりを作り出せる場所にしたかった。

様子が分かり近づきやすい集会所。

- ・正面から裏庭への見通し。
- ・メインスペースと和室の高さをかえ、リズム感をだした。
- ・デッキで周囲を囲み、どこからでもアプローチできるように。
- ・敷地南側はオープンスペースにしふれあいの場として利用する。

小さなつながりがどんどん広がっていくことを願って提案。

- 子供とお年よりがふれあう場。
失われつつある人間関係を取り戻す場。

【大坪委員長】

- ・使用方法が様々に想定できていることが非常にすばらしい。
- ・お年寄りにとって雨戸をたてこむ作業がでてくるところは、使い勝手の観点で少し疑問が残る。
日本の四季折々の気候などをもう少し考慮すればよかった。

【南委員】

- ・主張について、共鳴するところが非常に多く、よく頑張っている。
- ・管理サイドとしては、総ガラス張りは管理しにくいところがある。
- ・円形の柱は、全体のフォルムとしてどうマッチしているのか疑問が残った。

【指導教師】

- ・本人の考えた提案に対して、別の考え方をアドバイスした程度。
- ・現在使われている集会所が高齢者にやさしいかといえなければいけない。
その反対の方が山積みになっている現実があり、それを打開するためのひとつの提案として見てもらえたら。

佳作

Almighty

大阪建設専門学校 2年

難波 佑馬



【発表】

タイトル：全能的な

全てのことに対応するという意味がある。

私の考える集会所

- ・様々な人、環境に適応できる全能性があるということ。
- ・憩いの場であるということ。
- ・地域のシンボル、愛される施設であるということ。

全能性

- ・ボリュームに変化をあたえ個性をだす。
- ・部屋の用途に応じてボリュームを変えた。
- ・暗くなりがちの中廊下に採光を取り入れ開放的な空間に。

憩いの場

- ・中庭を設け、人々が集まる出会いの場とし地域活性化につなげる。

愛される施設

- ・庭を見渡せる縁側、出会いの中庭、使いやすい動線、ユーティリティなウッドデッキテラス
→ 様々な特徴があり、誰からも愛されるように。

設計にあたっては、先生方と話をしながら練り上げた。

【大坪委員長】

- ・人の通りと建物との関係性が見えにくかったのが残念。
- ・トイレとお茶ができるスペースは逆の方が良かったかもしれない。
- ・人と建物との関係をもう少し考えたら、もっと素晴らしいものになったと思う。

【南委員】

- ・平面計画は、左右逆のほうがもっと良かったと思う。
- ・交流をうながすふれあい喫茶のようなスペースは団地から見えたほうがいい。
- ・ウッドデッキの開き方を少し変えたらこのプランをより活かすことができた。

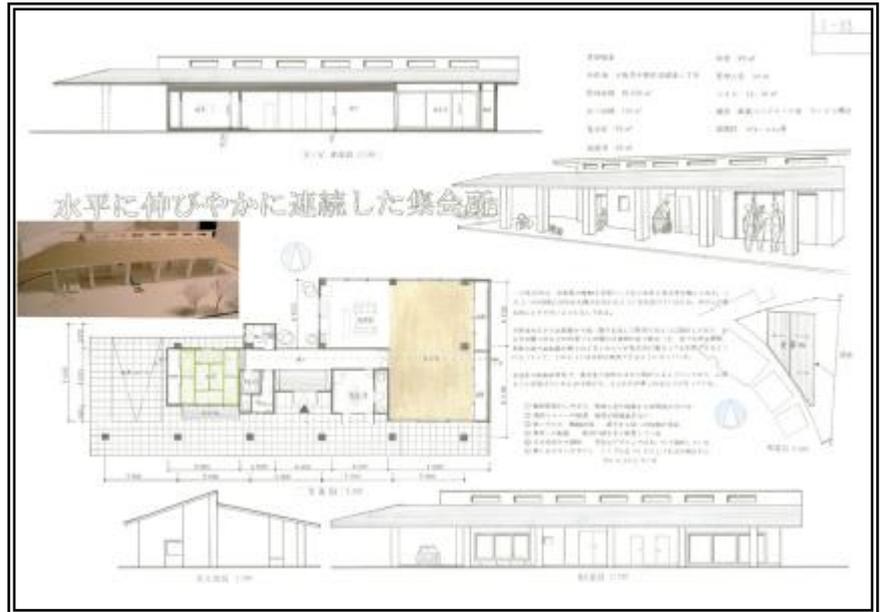
佳作

水平に伸びやかに 連続した集会所

大阪市立

都島工業高等学校 2年

清田 哲平



【発表】

メインとなる集会室と和室を切り離し、2つの部屋の特徴をだした。

→ 長い廊下になり、軒下空間が生まれた。

- ・ 様々な活動を行い、子供と大人が触れ合うことができる空間。
- ・ 人の出入りが頻繁になり、ふれあいが生まれる空間。
- ・ 駐車スペースを設け雨にぬれることなく集会所に入ることができる。

・ 和室は高さを加えて他の部屋と違う特徴をだした。

→ お年寄りとのふれあい、西側の広場は人の出入りができるように。

→ 外と内の行き来からふれあいが生まれた。

・ 玄関ホールの前にガラス窓を設け見通しよく。

→ 単なる移動目的ではなく、景色や植栽を楽しめるものに。

南北に長い集会所となり、軒下空間で触れ合うことができる誰もが集うコミュニティの場となった。

【大坪委員長】

- ・ 軒下空間があるのは非常にいい。→ さまざまな活動が期待できそう。
- ・ 団地内通路と集会所の間の空間の使い方が分かりにくかったことが残念。
- ・ 裏側の湯沸し室が表側にある方が、もっとふれあいのきっかけづくりになるのではと思った。
- ・ 方位に気をつけて。

【南委員】

- ・ ファサード的なものはよくわかるが、屋根のかけ方、高さの変化など、意図が見えにくい点があった。
- ・ 裏側の空間をきれいに処理することを考えてほしかった。

【指導教師】

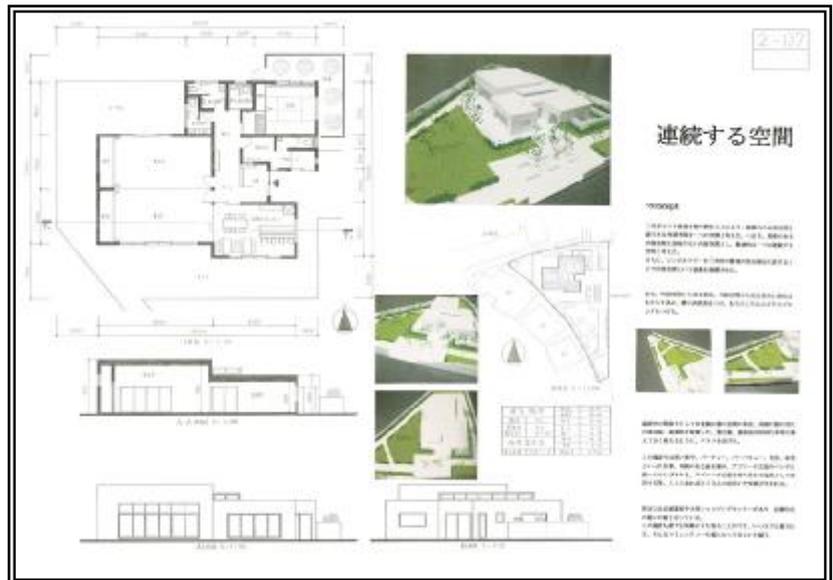
- ・ 最年少での受賞。
- ・ 製図にかける時間が少ない中、大阪工大の先生の指導を受けてあすなろにチャレンジした。
- ・ 入選の生徒が多く、学校としてもうれしい。

優秀作品賞

連続する空間

大阪工業技術専門学校 1年

谷口 弘一



【発表】

敷地を壁で囲み、内部空間化。

屋根のある内部空間、屋根のない内部空間とし連続する空間とした。

- ・壁で囲むことで、安心感が生まれた。
ガラスブロックを使用し圧迫感をなくした。
高さに変化をつけ腰掛け等に使用 → コミュニケーションが生まれる。
- ・ホール、廊下を中心軸とし、北側を静の空間、南側を動の空間に。
湯沸し室：外部からにぎわっている様子がわかる位置に。
アプローチ広場：外部空間と内部空間をつなぎ、コミュニケーションが生まれる重要な場所。
→ 庭との一体感を出し、動線がかぶらないように安全性を意識しバリアフリーを心がけた。
- ・敷地の頂点部分に3本のシンボルツリーを配置、全体が内部空間であると意識。
南側は日当たりがよいため、広く賑やかな庭に。
北側は狭くして落ち着いた庭に。

施設内だけでなく、屋外でも楽しくのんびりできる場所になればいいと思っている。

【大坪委員長】

- ・通路と敷地を区切る壁に違和感を覚えた。敷地を区切ってしまう必要があるのか。
- ・アプローチの広場はいいので、敷地と外部との関係をもう少し融通無碍に考えたらよかった。
- ・平面計画はよく練られており、南側の庭と施設の関係もいい。
- ・残念なのは、庇が無いこと。
庇を含め考えるのが建築のデザインだと思う。
自分のデザインの中に組み込んでいくともっとよくなると思う。

【南委員】

- ・このコンセプトでは壁を設けず、オープンにしてもよかったのではないかと。
交流を考えるのに壁の必要はないように思う。
- ・その点を除けば、主張が良くまとめられている。

【指導教師】

- ・塀があることのおもしろさもあると思う。
閉塞的になるのではなく、集会所から見える風景、外部から見える風景が異なることがおもしろいという考え方もできる。

優秀作品賞

link of people

～繰り返しのなかで～

大阪市立

都島工業高等学校 3年

久保田 伸次



【発表】

テーマは、出会いとつながり。→ また来たいと思ってもらえるように。

老若男女とはず、誰もが安心して使える建物を考えた。

- ・移動し易い空間づくり。
- ・集会所に来た人がいろんな感じ方をし、自然の力を最大限に利用できるように。

平面計画：管理しやすく、利用者が落ち着いて利用できるように。

→ 限られたスパンの中で最大限の使いやすさを。

→ いろんな空間がいろんなところにあるように。

動線が交差することで、人々の出会いが繰り返えされ、ふれあいから信頼関係につながる。

断面計画：誰もが目をひくように。

→ 柱を見せ、屋根の流れに変化を与えた。

和室の天井高を低くすることにより、集会所の中でも落ち着いた空間とした。

配置計画：各居室に光をもたらすように、建物自体に角度をつけた。

デッキを設け、屋外でのふれあいの可能性を増やした。

アプローチの際に、デッキで遊ぶ子供やお年寄り、集会所で過ごしている人たちが見え愛着の持てる建物にした。

何かの時に、誰にも気づかれないということもあるが、そういう点からもこのプランは大事。

【大坪委員長】

- ・プランが明快でわかり易い。
- ・残念なのは、裏側のデッキが団地内通路から見えにくいこと。
- ・庇を日本という風土ではもう少し大事な要素だと考えてほしい。
- ・設けたデッキをもう少し周囲に張りめぐらせ、中間領域を併せて計画したら、もう少し深みのあるデザインになってくると思うので、今後の参考にして。

【南委員】

- ・屋根の形が主張したい一つだと思うが、断面図では反映されていない。室内空間にもいかされたらよかったな。

【指導教師】

就職先が決まった後の10月からチャレンジ。

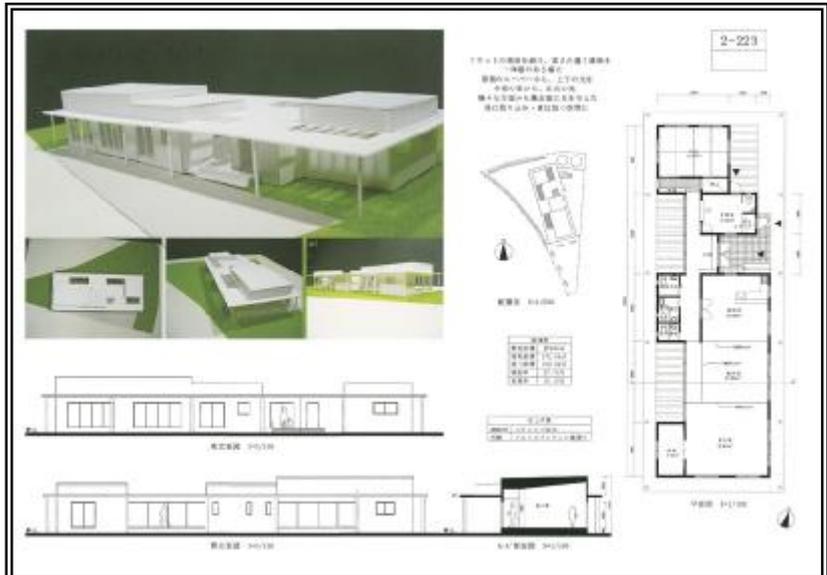
モチベーションを下げずよくがんばった。

優秀作品賞

昼夜の光

大阪建設専門学校 2年

上門 達彦



【発表】

昼夜の光というタイトルをつけた。

- ・ 昼は屋根のルーバー、窓から光が入り、
- ・ 夜は内部から光が外に出るように。

できる限り長い廊下をとり、スマートな建設物を検討。

- ・ メインアクセスから庭園が見え開放的な空間に。
- ・ 部屋の無い、くぼみのところにルーバーを設け、フラットな屋根から光が入るように。
- ・ 集会室と湯沸し室の高さを変え、清潔感のある広い空間に。
- ・ 内外部は中間領域によってプライバシーを保てる空間とした。
→日本の伝統的な軒空間をイメージした。

【大坪委員長】

- ・ 非常に魅力的な案で外観的にも清潔感がある。
- ・ 残念なのは、角度をつけることで設けた広場の使い方が不明な点。もう少し提案が欲しかった。特に提案が無いのであれば、通路に平行でよかったのではないかな。
- ・ 最優秀でも良いレベル。
- ・ 通路側の底はもう少し大きく出してもよかった。
- ・ 今後は、もっと使い方なども考えた提案をしていけるようにがんばってほしい。

【濱田補佐】

- ・ シンプルさがあって私も好きなプラン。
- ・ 大坪先生からいろいろ問題点も指摘されているが、
- ・ 日本の伝統的な空間、風土にあった原点からの引用がよい。
- ・ こういう伸びやかなプランをつくるのは非常に難しい。よくまとめたと思う。

【指導教師】

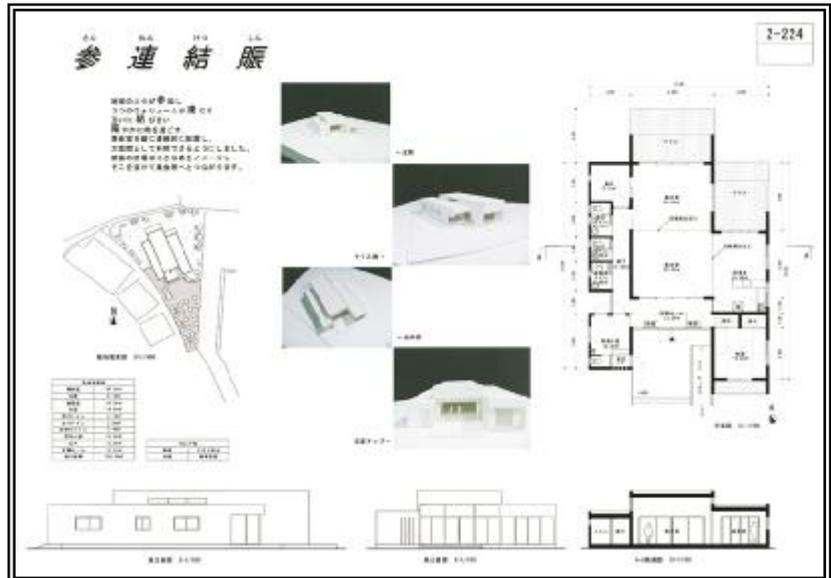
- ・ 開口部がシンプルで、均一な光がもれそう。
- ・ 京都の町屋のように格子が生かされるようなルーバーが壁面にもあれば、もっとよい計画になったのではないかな。
- ・ どのように集会所をとらまえて、どういう風な提案をしていくか。
親切にわかりやすくコメントする配慮があれば、文章でも表現してあるほうが良いと思う。
頑張る。

最優秀作品賞

参連結販

大阪建設専門学校 2年

岳本 大樹



【発表】

まず、要求条件を把握し各所室を単純化して考えた。

2つの配置パターンを検討

- ・ホール型：各諸室へのアクセスが容易で、面積的な無駄も少ない。
- ・廊下型：通路を軸として配置するため、長さが必要となり面積も大きくなる。
→ 面積的に余裕がないため、ホール型を採用。

内部構成は4種類で検討。

- ・一つの塊として内部を分割する方法
- ・大きく2つに分けて分割していく方法 → 今回は分割型、3分割型を採用。
- ・大きく3つに分けて3分割していく方法
- ・各諸室を単純化して考えたものを自由に配置する分散型

使用頻度が高く、開放感が求められる中央の集会室を中心に、使用頻度、人数でボリュームを変更。

配置：南側の道路を中心軸としてとらえた。

敷地を大きく二分化。東は静のプライベートな空間に。

外構計画：植林を整然と配置。ポーチと玄関と集会室と北側のテラスと東側のテラス、全てが一直線上になるように配置した。

地域の人々に参加してもらい、たがいに結び合うことによって、賑やかなときを過ごしていただきたいという思いとともに、3つの連続しているボリューム、このタイトルに、この建築に対する思いを全て集約した。

【大坪委員長】

- ・どういう分析がなされたのかよく分かった。
- ・必ずしも南側からだけ人がくるとはならないということを含めて考えると、軸の設定に疑問が残る。
- ・壁構造とした理由は？ → ラーメン構造が嫌いなだけ。
- ・空間ボリュームに合わせた高さ設定は良いと思う。一方向に向かっている方向性をもう少し融通無碍にしていくともっといい空間ができ使いやすくなっていくのでは。
- ・今後もいろんなことを考えながら、設計の中に活かしてほしい。

【濱田補佐】

- ・実現性を重んじると、管理面、コスト面からも最も問題の少ないプラン。
- ・当たり前の視点をきちんと考えてくれている。
- ・壁が平行に並ぶということが、この三角形の敷地にふさわしかったのかなと思う。

全体講評

審査委員長

武庫川女子大学生活環境学部
生活環境学科教授

大坪 明



今回は非常にたくさんの応募がありました。
そういう意味では、この賞も皆さんの中に定着しているのかなと思います。
今後とも、是非応募していただきたい。

行政庁の中で実施にいたるコンペを若い人向けにやっているのは、大阪府だけだと思う。
この機会を是非自分のものにしていただくという意味でどんどん参加していただきたい。

今回は使う側の身になって考えるということが建築では大事だよという話がありました。
アイデアコンペでもなく実施に至るコンペである、という意味合いもありシビアさ加減
を年頭におきながら設計に臨むこともひとつの修練。

使う立場、管理する立場を考えてアイデアをだすこと。

萎縮してしまうのではなく、さらにそれを考えた上でよりすばらしいアイデアを提出していくと
いうことが求められているのだと思います。

震災の様子をみると、建築の無力さを感じる。

これからのまちづくりに、若い皆様方のアイデアが活かされるような時代になっていくことを望
んでいます。

この受賞をはげみにステップアップしてほしいと思います。